

# 行政視察報告書

令和元年6月14日

呉市議会議長 殿

呉市議会議員 中原 明夫

呉市議会議員 山本 良二

呉市議会議員 光宗 等

次のとおり行政視察したので報告します。

## 1. 視察期日

令和元年6月5日(水), 6日(木), 7日(金)

## 2. 調査項目

北海道 旭川市 北彩都あさひかわ整備事業について

---

北海道 砂川市 まちなか集客施設「SuBACo」について

---

北海道 札幌市 北海道さっぽろ食と観光情報館について

---

## 3. 参加議員

中原 明夫, 山本 良二, 光宗 等

## 4. 随行者

議会事務局主事 森 美咲

## 北海道 旭川市

### ■調査項目

北彩都あさひかわ整備事業について

#### ・調査対応者

旭川市 地域振興部 地域振興課 主幹 星 孝幸 氏

旭川市 議会事務局 議会総務課 主幹 紺野 恒義 氏

#### ・調査期日

令和元年6月6日(木) 午前9時30分～午前10時30分

#### ・旭川市の概要

人口：335,323人

世帯数：177,376世帯 (H31年4月1日現在)

#### ・調査目的

駅前整備、特に鉄道高架事業が市に与えた影響、及びその手法を知る。

#### ・調査内容

##### 【旭川市からの説明方法】

用意していただいた資料に沿い、旭川市地域振興課の職員から説明をしていただく。  
駅周辺の設備を案内いただき、視察をする。

##### 【経緯】

明治31年に鉄道が開通し、市を南北に分断する忠別川を背にする形で北向きに駅が建ったため、旭川市中心部は駅から北側に向かって栄えてきた。反対に、駅南側は北側の発展の影響を受け都市機能が年々低下し、川を挟んだ南北で差が生じていた。

鉄道が民営化したことを契機に、旧国鉄用地を活用し、かねてより課題であった都心機能の充実、自然と融合した市街地の形成を目的として旭川駅周辺開発整備計画の検討が開始されることとなった。「北彩都あさひかわ」の愛称で進められたこの計画は、旭川の発展のため多くの事業を展開し、約25年の年月をかけて完了した。

##### 【説明内容】

###### 〈整備方針〉

- ・鉄道の高架と、忠別川を横断する南北道路の整備
- ・旭川市発展のための新しい機能の導入
- ・忠別川の環境を活かした都心づくり
- ・賑わいを創出する都心部づくり

## 〈主な事業〉

### ・土地区画整理事業（平成8年度～平成31年度）

鉄道民営化に伴い生じた旧国鉄用地を整理し、自然と都市機能が調和した市街地形成をねらいとして、旭川市が主体となり公園や道路の整備を行った。整備自体は平成25年度にすべて完了、平成26年度から平成31年度の5年で保留地の売却も完了した。売却土地は主に商業用地として利用されている。総事業費約210億円。

### ・鉄道高架事業（平成10年度～平成23年度）

これまで鉄道・河川によって分断されていた都心地区（駅北側）と神楽地区（駅南側）をつなぐことを目的とし、土地区画整理事業とともに行われた。線路をかさあげする「限度額立体交差事業」で、事業の妨げとなるJR旭川運転所は初めの場所から約6km先の永山地区に移転。旭川駅を中心に約3.5kmを高架化した。

平成23年度にグランドオープンした旭川駅は、ガラスの壁面を採用し、明るく、市民が安全に使える造りとなっている。地元産の木材に全国から募集した1万人の名前を刻み駅構内に設置する「名前を刻むプロジェクト」を実施し、「木のまち旭川」をアピールしている。

北海道主体、事業費約596億円。

### ・橋梁整備事業

鉄道高架事業同様、都心地区と神楽地区の一体化をねらいとし、新神楽橋・氷点橋（ともに北海道主体）、クリスタル橋（旭川市主体）の3本の橋を整備した。これにより、交通混雑が解消されスムーズな移動が可能となった。元から存在していた神楽橋は保存し、駅寄りの宮前公園と南寄りの神楽岡公園とを結ぶ歩行者橋として活用している。総事業費約204億円。

## 【質疑応答】

(質問) 冬に行われている「北彩都あさひかわ冬のガーデン」の運営費用はどうしているのか。

(回答) 国の地方創生推進交付金を活用し平成28年～30年まで運営。今年度は交付金が切れるため、市の予算で運営予定。不足部分は実行委員会形式で準備する予定となっている。

(質問) インバウンドに対してどのような対応をしているか。

(回答) 案内などを英語表記にすることで対応。英語スタッフを配置するといったことはしていない。

(質問) 国・道との連携はどのようにして行ったか

(回答) 長期事業ということで連携は不可欠。構想時点で国・道に入ってもらい、ブレーンとして先生も呼んだ。それぞれで連絡を密にしながら慎重に進めていった。国も動いてくれたのは様々な事業を同時に進行したため、各部分の担当を分担し進めることができた。

## 【呉市での展開の可能性】

約25年という長い年月をかけて完了した「北彩都あさひかわ整備事業」は、計画段階から綿密に連携を取り、国・道・市が役割を分担して行われた大きなプロジェクトであった。国鉄改革や事業展開の必要性など、整備を行うのに丁度よいタイミングであったこともあるが、はっきりとしたテーマ、課題があったのも統一性のある景観が完成した一因であるだろう。

呉市においても、駅周辺の整備の必要性はかねてより叫ばれているところであるが、計画、連携、各場面で丁寧に事業を進め、具体的な目的を定めて事を進めることが求められる。

北海道 砂川市

### ■調査項目

まちなか集客施設「SuBACo」について

#### ・調査対応者

砂川市議会 議長 水島 美喜子 氏

砂川市 経済部 商工労働観光課長 為国 修一 氏

砂川市 経済部 商工労働観光課長補佐 奥山 雅喜 氏

砂川市 議会事務局 次長 川端 幸人 氏

砂川市 議会事務局 議事係長 斉藤 亜希子 氏

#### ・調査期日

令和元年6月6日（木）午後1時30分～午後3時00分

#### ・旭川市の概要

人口：16,969人

世帯数：8,911世帯 (R1年5月末現在)

#### ・調査目的

地域おこし協力隊による地域観光の振興、実際の定住効果を知り、呉市における活かし方を探る。

#### ・調査内容

##### 【砂川市からの説明方法】

用意していただいた資料に沿い、砂川市商工労働観光課の職員から説明をしていただく。

「SuBACo」を視察し、地域おこし協力隊の方から話を伺う。

##### 【経緯】

平成25年度から、「3年間砂川市に居住し、商店街の活性化及び観光振興に向けた地域協力活動を行いながら、砂川市への定住・定着を図る」ことを目的とし、商工観光部門において砂川市地域おこし協力隊が発足した。高齢化による商店の担い手不足や、隣

町への顧客流出といった問題を抱えていた市は、同年度8月、協力隊に主な運営を任せ  
る形で「消費者と商店街をつなぐ、人と人をつなぐ」拠点として、まちなか集客施設  
「SuBACo」をオープンさせた。現在では協力隊員それぞれが得意分野を活かし、老若  
男女問わず楽しめる企画を展開している。

## 【説明内容】

### 〈「SuBACo」の語源〉

「Su」 nagawa	…スナガワ
「B」 ank	…銀行（情報集約）
「A」 rt	…アート（芸術文化）
「Co」 mmunication	…コミュニケーション

ここで新しいつながりが生まれ、育ち、巣立っていく  
大人と子ども、様々なつながりを生み、市街地のにぎわいを創っていく場所

### 〈経費〉

R 元年度予算…1, 815 千円

主な内訳としては協力隊員が外で活動している際に対応する臨時職員の賃金、基本的な運営費など。平成28年度には内装をリニューアルしたが、協力隊員が自ら修繕したため10万円程度しかかからなかった。自分たちでできることはするというスタンスのため、極力経費をかけず、かつ愛着の湧く施設となっている。

### 〈主な事業〉

#### ・ショップカードの陳列

「SuBACo」壁面に棚を作り、ショップカードを作成し自由に持ち帰れるように陳列している。カードは名刺サイズとし、砂川市内の店舗の住所等の情報を掲載、多くの種類を用意。

#### ・季節行事

ハロウィーンディスプレイ展やクリスマスナイトウォーキング、もちつきなど、季節に合わせた行事を企画し、小さな子どもから大人まで様々な年代の方が参加できるようにしている。

#### ・忠臣蔵謎解きイベント

砂川市内にある北泉岳寺が赤穂浪士とゆかりが深いことから、これを広く周知するために謎解きイベントを開催。衣装を用意するなど、親子で楽しめる企画で盛り上がった。

#### ・まちなか観光サイクリング事業

平成30年度から開始。「SuBACo」に電動サイクリングを4台配置し、希望者に無料で貸し出す。周遊コースを提案しサイクリングを楽しんでもらったり、買い物に利用し

たりと自由に使ってもらい、気軽に市街地を回れるようにした。昨年度利用実績は208人、1日平均1.3人。

#### 〈成果・課題〉

イベントを開催することで市民の交流の場ができ、一過性ではあるが賑わいを取り戻すことができている。また、実際に協力隊員が商店主とコミュニケーションを取ることによって、商店街が抱える問題を把握でき、解決への手がかりとなる効果が期待できる。

反対に、「SuBACo」で生み出した賑わいを商店街にどう誘導するか、一時的ではない人の流れをいかにして作り出すかは今後も考えなければならない課題である。また、現行の人員では不足であるため、増員を目標としているが、現実的には協力隊員の確保は困難である。同時に勤務条件の改善など、全体の運営体制の整備が問題となっている。

#### 【質疑応答】

(質問) 地域おこし協力隊の定着度はどれくらいか。

(回答) 任期満了が一つのハードル。3年の期間を満了できたのは半分ほどであり、そのほとんどの方が砂川市に定住している。道内の隊員も多い。

希望する方はある程度イメージを膨らませてやってくるが、理想と現実のミスマッチも多く、それが原因でリタイアしてしまう人も多い。市としては意識疎通をしっかりとし、希望を訊きながら活動してもらおうようにしている。

(質問) 「SuBACo」の計画が先か、協力隊を集めることが決まってから「SuBACo」を立ち上げたのか。

(回答) どちらかというところ協力隊を採用しようという話になってから「SuBACo」を作ることになった。地域の方から空き店舗を無料で貸し出してくれるという話が出て、商店街の活性化のための施設を作ることとなった。

協力隊員はみんな同じ事をしているわけではなく、例えばメディアに強い方はチラシ作成、バルーンアートができる方は施設内に作品を飾り付けるなど、各々やりたい事や得意分野を活かし活動している。その中で、3年後砂川市内で生活していくためにできることを探してもらっている。

(質問) スイートロード事業に協力隊は関与しているのか。

(回答) 協力隊員は全員協議会の会員となっているため、自分の意見を述べることなどはある。現在行っているスタンプラリーも、骨格は協力隊が考えたもの。

(質問) 運営にあたり商店街の持ち出し金はあるか。

(回答) 経常的な負担金はない。運営費にあたっては家賃がかからないのは大きい。また、協力隊員の努力もあり費用は抑えられている。

#### 【呉市での展開の可能性】

砂川市と呉市の地域おこし協力隊制度で大きく異なっている点は、一箇所に集中しているか、諸島部に点在しているかである。もちろん市の構造や人口分布も異なるため一概に比較はできないが、砂川市のように拠点となる空間を作り、賑わいを生み出すこと

は、地域振興にとって重要であると考える。

協力隊員のアイデア、行動力、特技を十二分に活かし運営するには、市のサポート、商店街や地域住民の協力が不可欠である。呉市においても、隊員のやりたい事と住民のニーズを慎重に擦り合わせ、持続的かつ効果的な事業を展開する必要がある。

## 北海道 札幌市

### ■調査項目

北海道さっぽろ食と観光情報館について

#### ・調査対応者

北海道さっぽろ観光案内所 副所長 牧野 隆志 氏

#### ・調査期日

令和元年6月7日（金）午前9時30分～午前10時30分

#### ・旭川市の概要

人 口：1, 968, 657人

世帯数：961, 186世帯 (R1年5月1日現在)

#### ・調査目的

観光に特化した施設を視察し、呉市へ観光目的で訪れる方へのアプローチ法を探る。

#### ・調査内容

##### 【札幌市からの説明方法】

施設内を牧野副所長に案内していただき、その後座学形式で説明いただく。

##### 【説明内容】

「北海道さっぽろ食と観光情報館」は JR 札幌駅西コンコース北口に、主に観光客への情報提供を目的として平成19年に開設された。来館者は平成29年度実績で1, 582, 221人と、非常に多くの利用者を誇っている。

##### 〈主な施設〉

- ・札幌市観光ボランティア案内カウンター  
常時2名が対応、観光ボランティアは178名登録している。
- ・JR インフォメーションデスク（外国人デスク）  
外国人に対応するため英語・中国語・韓国語スタッフを配置。
- ・北海道ユニバーサル観光センター・札幌  
バリアフリー対応の観光地、宿泊施設の紹介や、車いす等のレンタルを行っている。
- ・北海道どさんこプラザ札幌店

道産品（海産品・農作物・乳製品等）の展示，販売を行うアンテナショップ。

- ・カフェ ノルテサッポロ  
道産食品を用いたスイーツ等の提供，コインロッカーの運営。
- ・元気ショップ「いこ〜る」  
作業所や施設で制作された商品の販売。

〈訪日外国人〉

年々増加傾向にある。特に平成25年度は，LCCの発達やリピーターの増加もあり，来訪者数は飛躍的に増加した。国別では中国，東南アジア方面から来られる方が多くなっている。

#### 【質疑応答】

（質問）指定管理制度なのか。

（回答）業務委託を受けており，毎年更新している。もとは札幌だけで業務を行っていたが，北海道・札幌市から情報館の話があり北海道全域に広げた。前年度参考に委託料は毎年決めている。

（質問）ATMやSIMカード販売などを導入するにあたり費用はかかったか。

（回答）設置は業者から依頼されて行っているため，情報館が支払うのではなく業者が負担しており，館としては積極的に受け入れている。設置情報はホームページ等で発信している。

（質問）地震の際迅速な対応をされたようだが，マニュアルを作成していたのか。

（回答）計画書はあったが想定外の災害だったため，対応しきれない部分はあった。その中で，館としてできること，例えば電源の提供等を行った。

#### 【呉市での展開の可能性】

呉市で観光情報を扱う施設という点，くれ観光情報プラザが該当するが，「食と観光」情報館は駅構内という立地，食事の提供，外国人への対応，バリアフリーなど利用者が快適に使える工夫を多く取り入れ，それが来館者の増加につながっていると感じた。

情報を提供するだけでなく，観光客がほしい情報，ニーズを掴み，積極的に来たいと思える施設づくりに努めることが重要である。